【斎藤家・仁礼家結納目録】

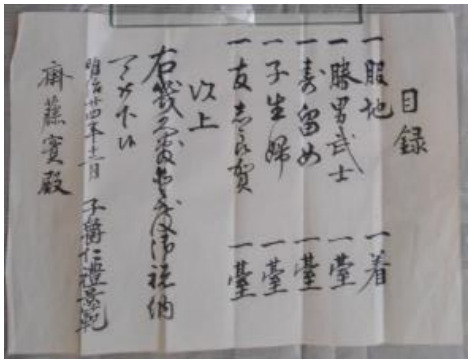
６月の様々な風物詩のうち、結婚にまつわる言い伝えである「ジューンブライド（June bride)」という言葉を思い浮かべる人も多いのではないでしょうか。「ジューンブライド」とは、古くからヨーロッパで「６月に結婚する花嫁は幸せになれる」とされる言い伝えのこと。意味や由来については諸説ありますが、ギリシャ神話に登場する神主ゼウスの妃で、結婚や出産を司る女神「Juno（ジュノ)」が守護する月が６月（June）であることから、この月に結婚をすると生涯幸せに暮らせると言われています。また、当時日本においての結婚式は家庭で行うことが通例で、斎藤家と仁礼家の結納と結婚式も住まいとしていた門前町の借家で行われました。今月の“イッピン”はその結納にまつわる関係書類です。

實と春子夫人の出会いのきっかけとなったのは、春子夫人の父親であり元海軍兵学校校長や海軍大臣を務めた仁礼景範（にれかげのり）。景範は實のことを兵学校時代から一目置いており、歓待の場で春子を紹介。その後も度々實らを宿舎などに招いていたため春子とも顔を合わせる機会がありました。さらに景範の転任にともない、横須賀から品川までお供をしていた春子は軍艦橋立に便乗。艦からおぼつかない足どりで上陸する振袖姿の春子を心配した實は、とっさに手を差し伸べ手助けします。欧米のマナーを身につけていた實のスマートな姿はひときわ際立った存在に映り、「結婚するならこの人」と春子もひそかにそう決めていたと後日語っています。明治 24（1891）年 12 月 14 日海軍参謀部少佐職務心得となった實は、ある日景範から「春子をもらってはくれまいか」と結婚の申し出を受けます。家柄の違いを理由に固辞した實に対し上官の山本権兵衛は説得を行い、その翌年山本の媒酌により２月５日、實 35 歳、春子 20 歳、２人はめでたく結婚します。

實は「結婚之時ノ事」と記した封筒に、結婚式の次第や宴会の席次などを記した書類を大切に保存しており、それらの書類から、箪笥や長持などが運びこまれたことがわかります。

結納「目録」
明治廿四年十二月

仁礼家から實に贈った目録
「御祝納　可被下候」
（おんしゅうのう
くださるべくそうろう
…どうぞお受け取り下さい
の意）

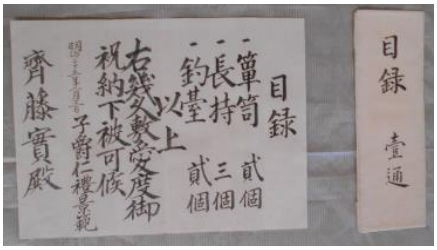


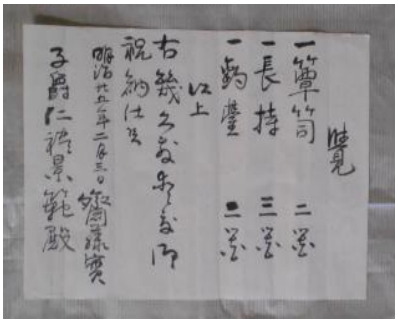
【結納品の内訳】
一　服地　一着
一　勝男武士（かつおぶし）　一臺
一　寿留女（するめ）　一臺
一　子生婦（こんぶ）　一臺
一　友志良賀（ともしらが　白い麻）　一臺

※結納「受書」や結納「受書」控えも残っている。

嫁入り持参品「目録」
明治二十五年二月三日

仁礼家から實へ
（どうぞお受け取り
ください）



嫁入り持参品「目録」
明治二十五年二月三日

實から仁礼家へ
（お受け取り
いたしました）